

## 1. 概要

平成22年10月1日現在の住民基本台帳・外国人登録に基づく浜松市の人口は820,317人で、前年に比べ3,706人(0.45%)減少している。世帯数は317,669世帯で、489世帯(0.15%)減少している。

性別にみると、男性が408,612人(構成比49.8%)で、前年に比べ2,032人(0.49%)減少している。女性は411,705人(同50.2%)で、前年に比べ1,674人(0.40%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.2で、平成21年の99.3に比べわずかに減少している。

1世帯あたりの平均人員は2.58人で、前年に比べ、0.01人減少している。

【図1 浜松市人口の推移】

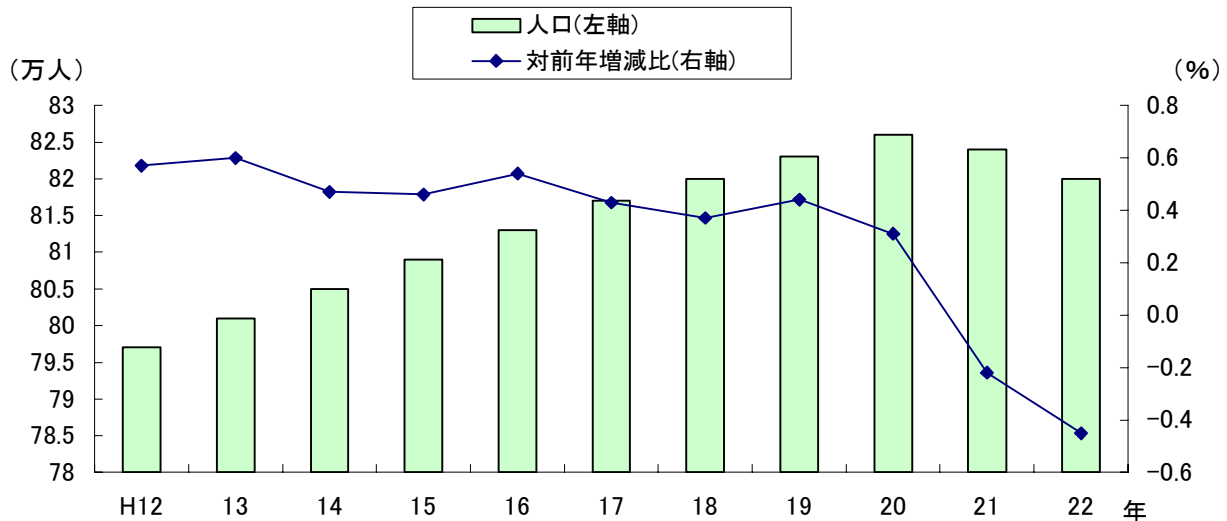


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総 人 口			住 民			
	総 数	前年比%	男	女	世 帯 数	総 数	前年比%
平成 12年	796 612	0.57	395 576	401 036	277 915	775 508	0.37
13	801 406	0.60	397 965	403 441	282 979	778 118	0.34
14	805 180	0.47	399 775	405 405	287 511	780 649	0.33
15	808 840	0.45	401 666	407 174	291 931	782 875	0.29
16	813 202	0.54	403 861	409 341	296 758	784 852	0.25
17	816 658	0.42	406 065	410 593	301 643	786 300	0.18
18	819 699	0.37	408 372	411 327	306 014	788 102	0.23
19	823 272	0.44	410 378	412 894	313 150	790 292	0.28
20	825 810	0.31	411 822	413 988	316 716	792 191	0.24
21	824 023	0.22	410 644	413 379	318 158	793 505	0.17
22	820 317	0.45	408 612	411 705	317 669	792 788	0.09

注)平成12年～16年は12月末日人口、平成17年以降は10月1日人口

表2 浜松市人口・世帯数等

	平 成 21 年 10 月 1 日						前年比%	
	総 数	男	女	性比	世帯数	1世帯あたり 平均人員	総 数	前年比%
総 人 口	824 023	410 644	413 379	99.3	318 158	2.59	820 317	0.45
住 民 登 録	793 505	394 974	398 531	99.1	300 543	2.64	792 788	0.09
外 国 人 登 録	30 518	15 670	14 848	105.5	17 615	1.73	27 529	9.79

## 2. 住民基本台帳人口と外国人登録人口

平成22年10月1日現在の住民基本台帳人口は792,788人で、前年に比べ717人(0.09%)減少している。世帯数は302,750世帯で、2,207世帯(0.73%)増加している。

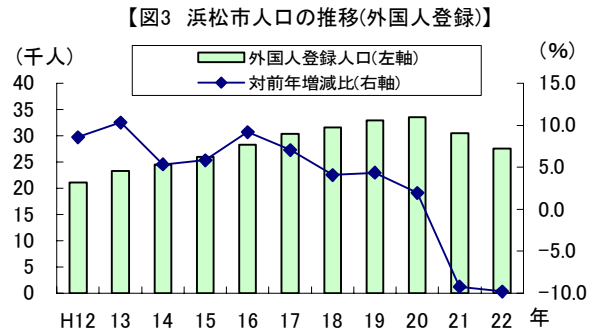
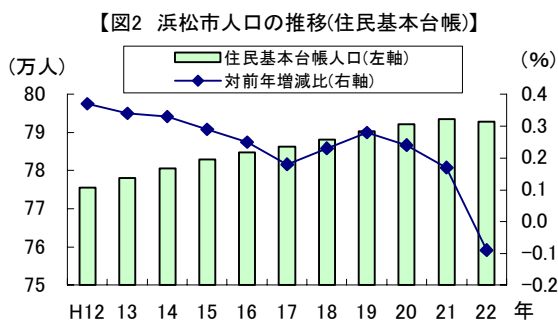
性別にみると、男性が394,755人(構成比49.8%)で、前年に比べ219人(0.06%)減少している。女性は398,033人(同50.2%)で、前年に比べ498人(0.12%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.2で、平成21年の99.1に比べ0.1増加している。

1世帯あたりの平均人員は2.62人で、前年に比べ0.02人減少している。

平成22年10月1日現在の外国人登録人口は27,529人で、前年に比べ2,989人(9.79%)減少している。世帯数も14,919世帯で、前年に比べ2,696世帯(15.31%)減少している。

性別にみると、男性が13,857人(構成比50.3%)で、前年に比べ1,813人(13.08%)減少、女性は13,672人(同49.7%)で、前年に比べ1,176人(8.6%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は101.4で、平成21年の105.5に比べ減少している。

1世帯あたりの平均人員は1.85人で、前年に比べ0.12人増加している。



注)平成12年～16年は12月末日人口、平成17年以降は10月1日人口

登 録			外 国 人 登 録				
男	女	世 帯 数	総 数	前年比%	男	女	世 帯 数
384 410	391 098	266 965	21 104	8.58	11 166	9 938	10 950
385 890	392 228	270 867	23 288	10.35	12 075	11 213	12 112
387 101	393 548	274 560	24 531	5.34	12 674	11 857	12 951
388 413	394 462	278 240	25 965	5.85	13 253	12 712	13 691
389 539	395 313	281 631	28 350	9.19	14 322	14 028	15 127
390 440	395 860	285 724	30 358	7.08	15 625	14 733	15 919
391 665	396 437	290 052	31 597	4.08	16 707	14 890	15 962
393 023	397 269	293 790	32 980	4.38	17 355	15 625	19 360
394 277	397 914	297 481	33 619	1.94	17 545	16 074	19 235
394 974	398 531	300 543	30 518	9.22	15 670	14 848	17 615
394 755	398 033	302 750	27 529	9.79	13 857	13 672	14 919

平 成 22 年 10 月 1 日									
男	前年比%	女	前年比%	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり 平均人員	面積km <sup>2</sup>	人口密度
408 612	0.50	411 705	0.41	99.2	317 669	0.15	2.58	1,558.04	527
394 755	0.06	398 033	0.13	99.2	302 750	0.73	2.62	-	-
13 857	13.08	13 672	8.60	101.4	14 919	18.07	1.85	-	-

### 3. 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、中区が人口・世帯数ともに最も多く、人口は244,256人(構成比29.8%)、世帯数は106,565世帯(同33.5%)である。人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、人口は35,403人(同4.3%)、世帯数は13,474世帯(4.2%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,522人/km<sup>2</sup>、最も低いのは天竜区の38人/km<sup>2</sup>である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が101.3と最も高く、続く東区も100.9で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の93.4である。

【図5 行政区別人口・世帯数(構成比)】  
外円:人口/内円:世帯数

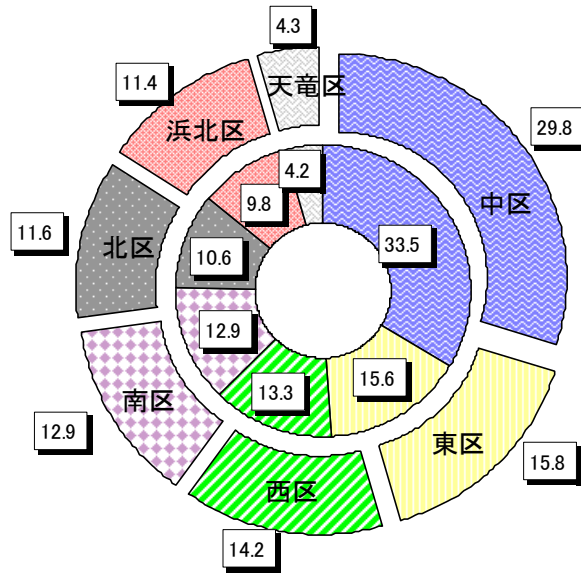


表3 区別の人口・世帯数等

区	平成21年10月1日				平		
	総数	男	女	世帯数	総数	前年比%	男
中区	247 034	123 299	123 735	107 236	244 256	1.12	121 667
東区	130 114	65 404	64 710	50 216	129 526	0.45	65 050
西区	116 232	57 770	58 462	41 825	116 418	0.16	58 027
南区	106 344	53 483	52 861	40 978	106 141	0.19	53 403
北区	95 639	47 245	48 394	33 393	95 511	0.13	47 135
浜北区	92 514	45 987	46 527	30 904	93 062	0.59	46 232
天竜区	36 146	17 456	18 690	13 606	35 403	2.06	17 098

#### 4. 年齢別人口

年齢別に人口をみると、実数では老年人口(65歳以上)が増加し、年少人口(15歳未満)と生産年齢人口(15歳～64歳)が減少している。構成比では、年少人口が14.1%で前年比0.1%減、生産年齢人口が63.8%で前年比0.4%減少しているのに対し、老年人口は22.1%で前年比0.5%増加している。

行政区別にみると、年少人口の占める割合が最も高いのは西区(15.4%)で、最も低いのは天竜区(8.7%)である。

生産年齢人口の占める割合が最も高いのは中区(65.4%)で、最も低いのは、年少人口と同様天竜区(54.6%)である。

表4 年齢3区分別人口

	平成21年	平成22年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口(15歳未満)	117 108	115 971	32 997	19 594	17 973	15 377	13 055	13 883	3 092
構成比(%)	14.2	14.1	13.5	15.1	15.4	14.5	13.7	14.9	8.7
生産年齢人口(15歳～64歳)	529 083	523 546	159 800	83 429	73 719	67 933	60 283	59 057	19 325
構成比(%)	64.2	63.8	65.4	64.4	63.3	64.0	63.1	63.5	54.6
老年人口(65歳以上)	177 832	180 800	51 459	26 503	24 726	22 831	22 173	20 122	12 986
構成比(%)	21.6	22.1	21.1	20.5	21.3	21.5	23.2	21.6	36.7

平成22年		平成10年		平成11年		平成12年		平成13年		平成14年		平成15年	
女	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり 平均人員	人口構成比	面積 k m <sup>2</sup>	人口密度	女	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり 平均人員	人口構成比
122 589	99.2	106 565	0.63	2.29	29.8	44.23	5 522	122 589	99.2	106 565	0.63	2.29	29.8
64 476	100.9	49 680	1.07	2.61	15.8	46.29	2 798	64 476	100.9	49 680	1.07	2.61	15.8
58 391	99.4	42 238	0.99	2.76	14.2	114.40	1 018	58 391	99.4	42 238	0.99	2.76	14.2
52 738	101.3	40 841	0.33	2.60	12.9	47.02	2 257	52 738	101.3	40 841	0.33	2.60	12.9
48 376	97.4	33 605	0.63	2.84	11.6	295.59	323	48 376	97.4	33 605	0.63	2.84	11.6
46 830	98.7	31 266	1.17	2.98	11.4	66.51	1 399	46 830	98.7	31 266	1.17	2.98	11.4
18 305	93.4	13 474	0.97	2.63	4.3	944.00	38	18 305	93.4	13 474	0.97	2.63	4.3

注)平成22年3月16日 浜名湖における浜松市と湖西市及び新居町との境界の決定並びに浜松市と湖西市の境界修正により面積変更

年齢構成指数をみると、年少人口指数は前年から0.1ポイント上昇の22.2、老年人口指数は同0.9ポイント上昇の34.5、従属人口指数は同1.0ポイント上昇の56.7、老年化指数は同4.0ポイント上昇の155.9である。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で100を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数(生産年齢人口に占める年少人口の割合)

$$\frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

- 老年人口指数(生産年齢人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

- 従属人口指数(生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和)

$$\frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

- 老年化指数(年少人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

【図6 年齢3区分別人口(構成比)】

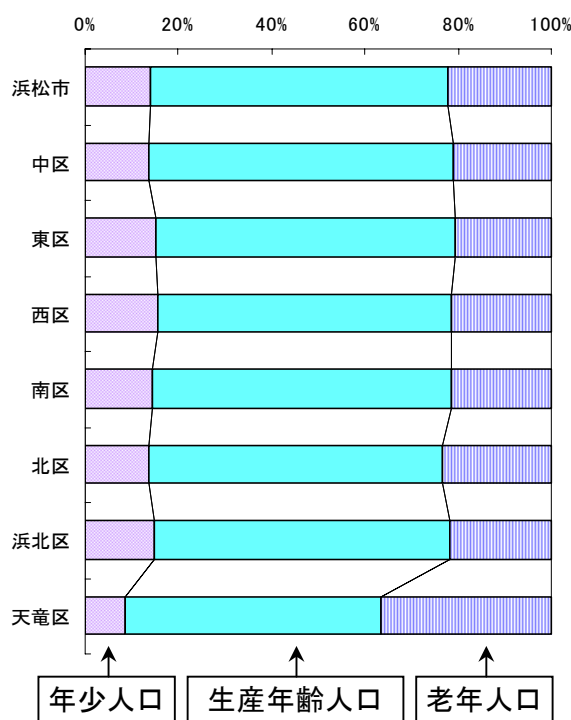


表5 年齢構成指数

	平成21年	平成22年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口指数	22.1	22.2	20.6	23.5	24.4	22.6	21.7	23.5	16.0
老年人口指数	33.6	34.5	32.2	31.8	33.5	33.6	36.8	34.1	67.2
従属人口指数	55.7	56.7	52.9	55.3	57.9	56.2	58.4	57.6	83.2
老年化指数	151.9	155.9	156.0	135.3	137.6	148.5	169.8	144.9	420.0

住民基本台帳人口の平均年齢は44.02歳で、前年の43.70歳より0.32歳上昇している。男女別にみると、男性は42.59歳(前年42.28歳)、女性は45.45歳(同45.10歳)で、ともに前年に比べ上昇している。外国人登録人口の平均年齢は31.80歳で、前年の31.38歳より0.42歳上昇している。男女別にみると、男性は31.58歳(前年31.31歳)、女性は32.02歳(同31.45歳)で、ともに前年に比べ上昇している。

行政区別にみると、住民基本台帳人口の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは中区の0.45歳で、最も上昇幅が小さかったのは浜北区の0.15歳であった。外国人登録人口の平均年齢は、前年に比べ、いずれも上昇している。

表6 平均年齢

【住民基本台帳】

	21年			22年		
	平成 男	平成 女	平成 合計	平成 男	平成 女	平成 合計
浜松市	42.28	45.10	43.70	42.59	45.45	44.02
中区	41.96	44.95	43.46	42.40	45.40	43.91
東区	41.20	43.64	42.41	41.54	43.96	42.74
西区	41.37	44.24	42.81	41.56	44.55	43.06
南区	41.95	44.76	43.35	42.21	45.10	43.65
北区	42.95	46.02	44.50	43.29	46.38	44.86
浜北区	42.36	44.32	43.35	42.48	44.50	43.50
天竜区	50.38	54.06	52.28	50.66	54.54	52.67

【外国人登録】

	21年			22年		
	平成 男	平成 女	平成 合計	平成 男	平成 女	平成 合計
浜松市	31.31	31.45	31.38	31.58	32.02	31.80
中区	31.65	32.00	31.82	31.89	32.47	32.18
東区	31.12	32.07	31.59	31.32	32.41	31.87
西区	29.96	29.78	29.87	29.87	30.52	30.19
南区	30.30	30.28	30.29	30.78	30.88	30.83
北区	32.42	30.72	31.58	32.60	31.76	32.16
浜北区	31.75	31.80	31.77	32.42	32.34	32.38
天竜区	37.70	35.83	36.77	38.55	38.06	38.29

人口ピラミッド(5歳階級)は、住民基本台帳人口において、第一次ベビーブーム世代である61～63歳(昭和22～24年生)と、第二次ベビーブーム世代である36～39歳(昭和46～49年生)の人口が多いことを表している。外国人登録人口は、20歳代後半の人口が最も多い。

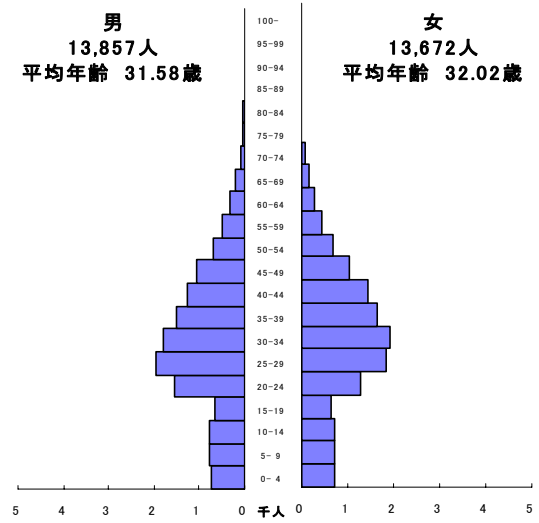
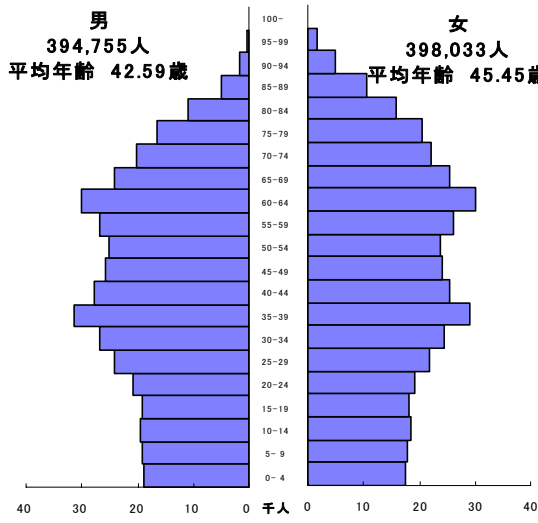
行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。北区の住民基本台帳人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の住民基本台帳人口には、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

【図7 人口ピラミッド(5歳階級)】

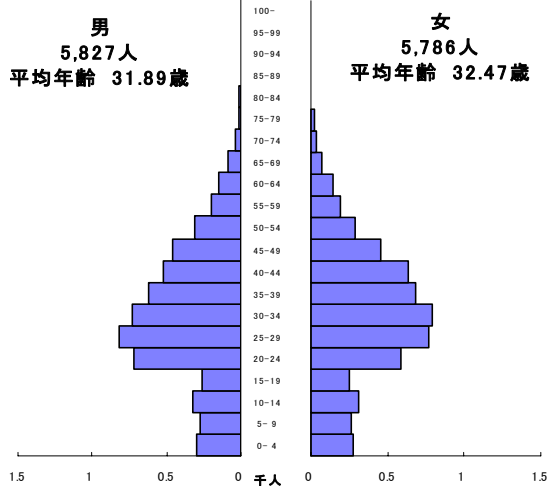
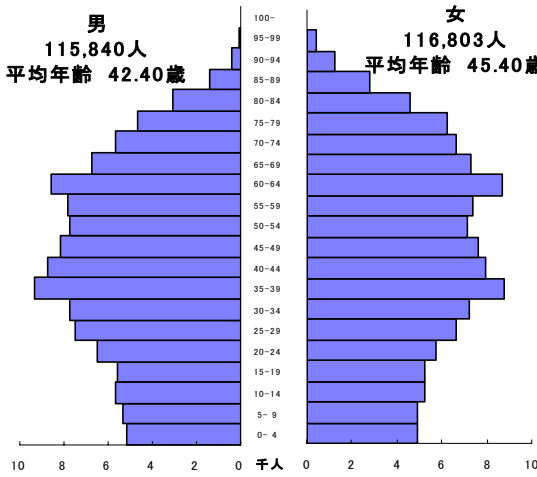
〈住民登録人口〉

〈外国人登録人口〉

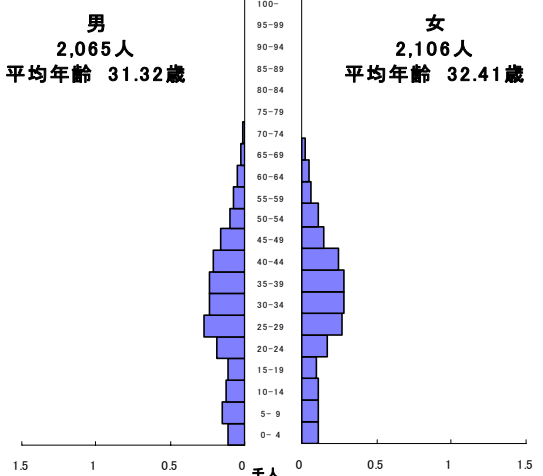
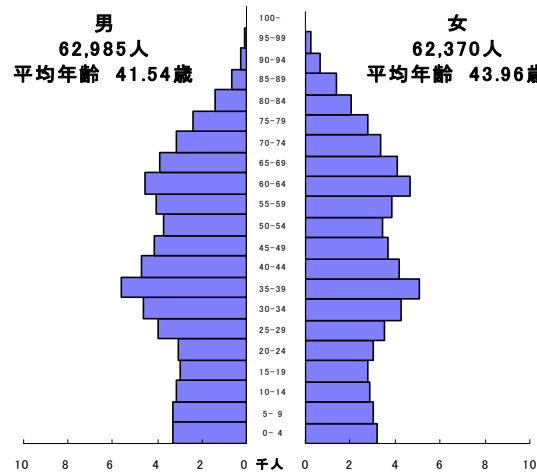
《 浜 松 市 》



《 中 区 》



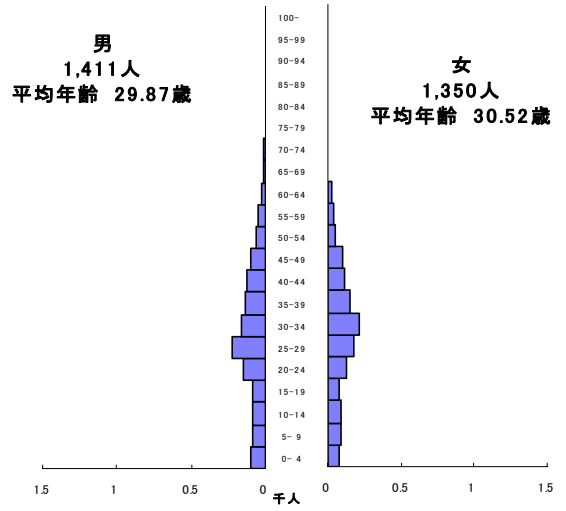
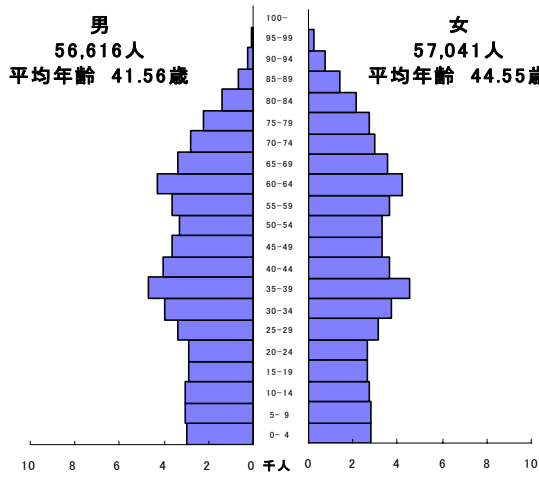
《 東 区 》



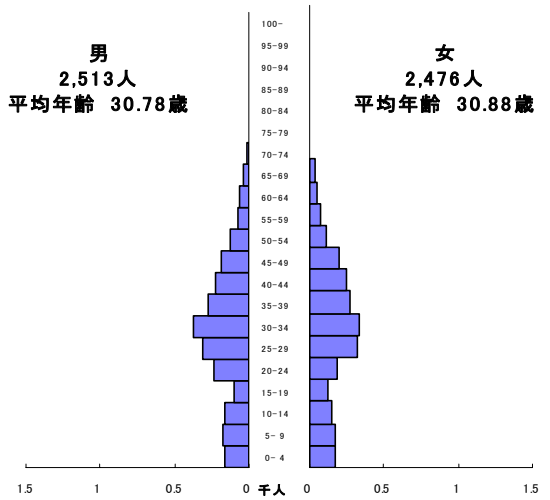
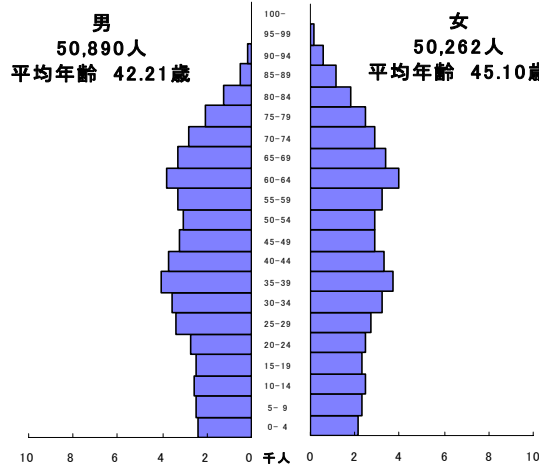
《住民登録人口》

《外国人登録人口》

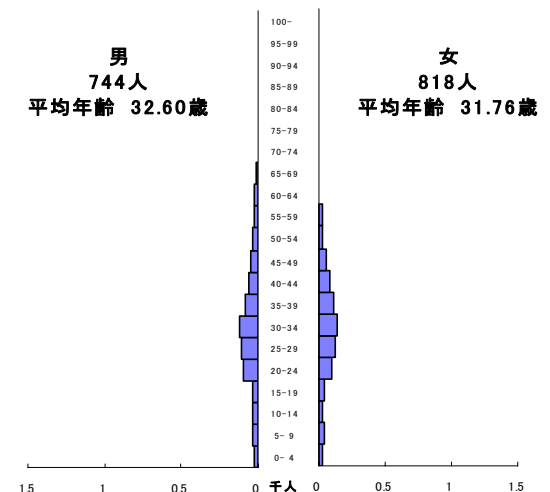
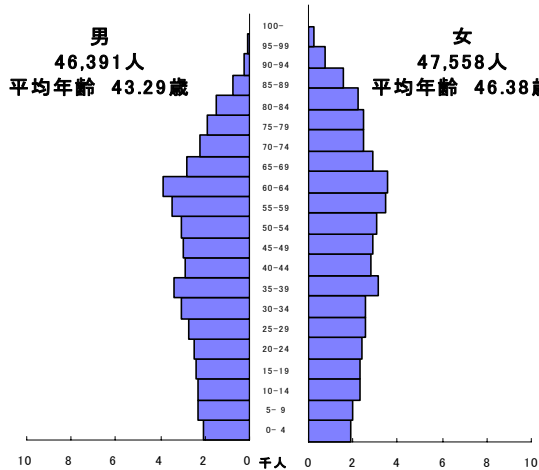
《 西 区 》



《 南 区 》



《 北 区 》

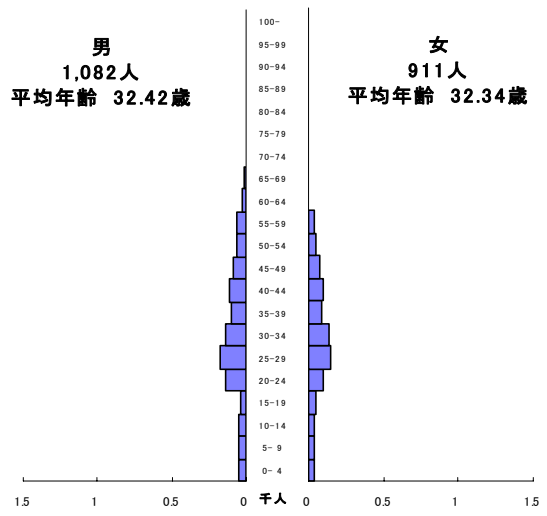
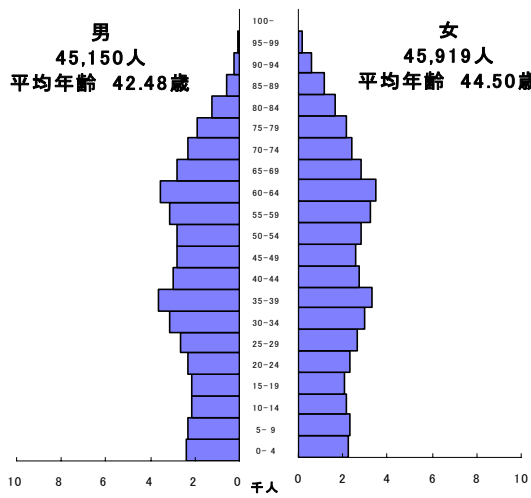




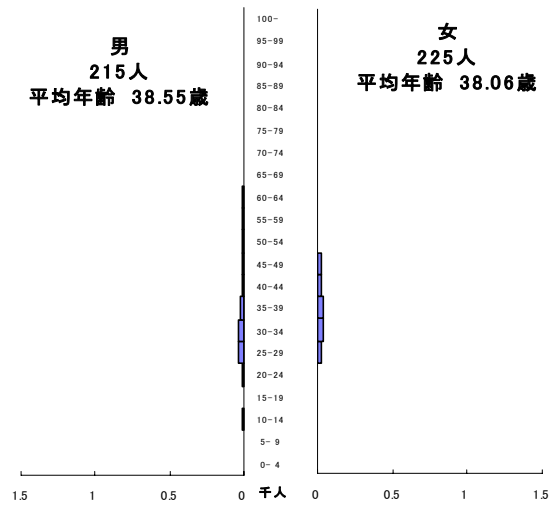
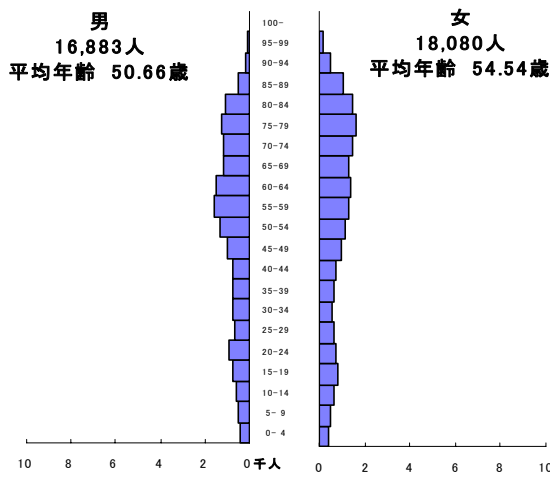
<住民登録人口>

<外国人登録人口>

《 浜 北 区 》



《 天 竜 区 》



## 5. 人口動態(平成22年1月～12月)

### (1) 自然動態

平成22年1月から12月までの自然動態をみると、出生数は7,466人、出生率(人口1,000人あたりの出生数)は9.10%(パーミル)である。これに対し、死亡数は7,050人、死亡率(人口1,000人あたりの死亡数)は8.59%で、両者の差である自然増加数は416人、自然増加率(人口1,000人あたりの自然増加数)は0.51%である。

前年と比較すると、出生数は21人増で3年ぶり増加、死亡数は296人増で4年連続増加している。自然増加数は275人減で3年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数は中区、東区、西区の順に多く、死亡数は中区、西区、東区の順に多い。自然増加数は東区、浜北区、南区の順に多く、北区と天竜区では減少している。

率をみると、出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。逆に、死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは東区であり、従って自然増加率も、最も高いのが東区、最も低いのが天竜区である。

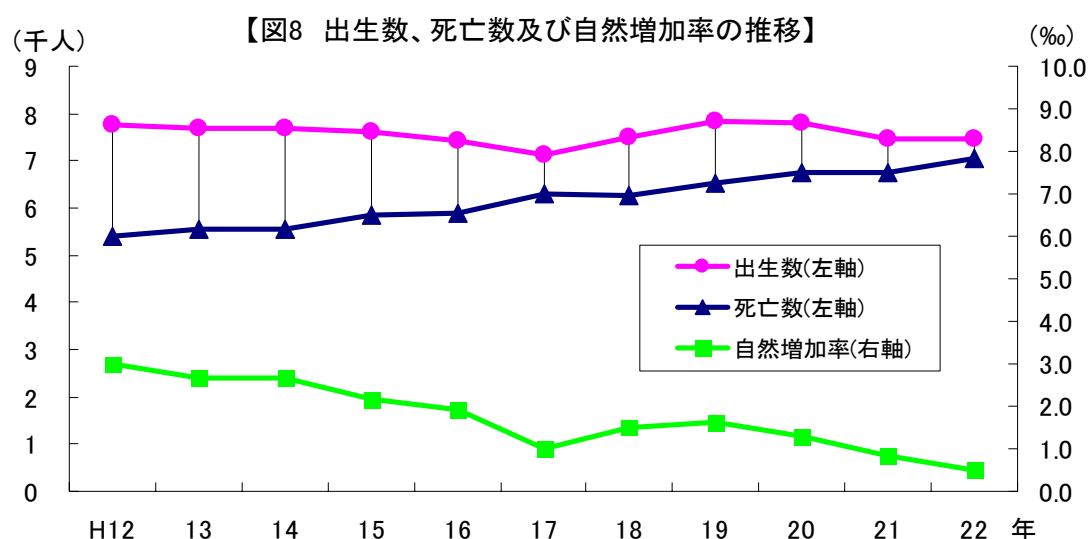


表6 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 加		
	総 数	出生率(%)	前年比(%)	総 数	死亡率(%)	前年比(%)	総 数	自然増加率(%)	前年比(%)
浜松市	7,466	9.10	0.28	7,050	8.59	4.38	416	0.51	39.80
中 区	2,080	8.52	-	1,993	8.16	-	87	0.36	-
東 区	1,396	10.78	-	943	7.28	-	453	3.50	-
西 区	1,145	9.84	-	1,055	9.06	-	90	0.77	-
南 区	1,006	9.48	-	862	8.12	-	144	1.36	-
北 区	799	8.37	-	912	9.55	-	-113	1.18	-
浜北区	898	9.65	-	737	7.92	-	161	1.73	-
天竜区	142	4.01	-	548	15.48	-	-406	11.47	-
平成21年	7,445	9.03	4.77	6,754	8.20	0.10	691	0.84	34.63

## (2) 社会動態

平成22年1月から12月までの社会動態をみると、転入者数は21,497人、転入率(人口1,000人あたりの転入者数)は26.21‰(パーミル)である。これに対し、転出者数は24,787人、転出率(人口1,000人あたりの転出者数)は30.22‰で、両者の差である社会増加数は3,290人減少となり、社会増加率(人口1,000人あたりの社会増加数)は△4.01‰である。

前年と比較すると、転入者数は2,156人減、転出者数も3,009人減少となった。社会増加数は853人増で、20.59‰の増加となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区、西区の順に多い。社会増加数はすべての区において減少しており、中区、南区、東区の順に減少数が多い。率をみると、転入率・転出率ともに最も高いのは中区であるが、社会増加率はすべての区で減少しているが、なかでも北区が最も減少の幅が少なく、西区がそれに続いている。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は自然増加数416人に対し社会増加数は3,290人減少となり、前年の減少に比べ、その幅は小さくなっているが、引き続き人口は減少している。

【図9 転入者数、転出者数及び社会増加率の推移】

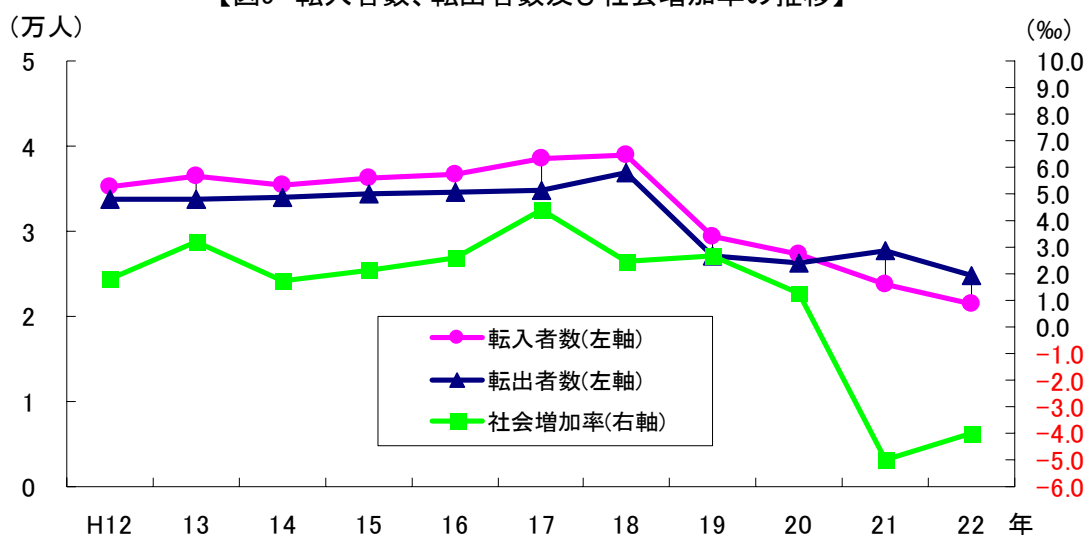


表7 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 加		
	総 数	転入率(‰)	前年比(%)	総 数	転出率(‰)	前年比(%)	総 数	社会増加率(‰)	△は減少率 前年比(%)
浜松市	21,497	26.21	9.12	24,787	30.22	10.83	3,290	4.01	20.59
中 区	8,552	35.01	-	10,138	41.51	-	1,586	6.49	-
東 区	3,369	26.01	-	3,781	29.19	-	412	3.18	-
西 区	3,081	26.46	-	3,297	28.32	-	216	1.86	-
南 区	2,657	25.03	-	3,152	29.70	-	495	4.66	-
北 区	1,787	18.71	-	1,943	20.34	-	△ 156	1.63	-
浜北区	1,581	16.99	-	1,857	19.95	-	276	2.97	-
天竜区	470	13.28	-	619	17.48	-	149	4.21	-
平成21年	23,653	28.70	13.57	27,796	33.73	5.64	4,143	5.03	493.07

## 6. 人口移動状況(住民基本台帳・平成22年1月～12月)

平成22年1月から12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は8,619人(構成比52.1%)、転出者は8,586人(49.9%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者は東京都特別区部、静岡市、名古屋市の順に多く、転出者は東京都特別区部、静岡市、名古屋市の順に多い。

全国でみると671人の転出超過であるが、北海道、北陸甲信越地方、東海地方、近畿地方、中国地方及び四国地方に対しては転入超過である。東海地方においては33人の転入超過であるが、静岡県以外は全ての県で転出超過である。

表8 地方別転入・転出者数

地方	転入				転出				転入超過数(△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	16,541	100.0	9,483	7,058	17,212	100.0	9,829	7,383	671	346	325
北海道	287	1.7	168	119	258	1.5	166	92	29	2	27
東北	381	2.3	228	153	425	2.5	283	142	44	55	11
関東	3,829	23.2	2,224	1,605	4,743	27.5	2,727	2,016	914	503	411
北陸甲信越	633	3.8	358	275	601	3.5	361	240	32	3	35
東海	8,619	52.1	4,822	3,797	8,586	49.9	4,756	3,830	33	66	33
近畿	1,227	7.4	692	535	1,202	7.0	671	531	25	21	4
中国	568	3.4	390	178	320	1.8	191	129	248	199	49
四国	157	1.0	87	70	119	0.7	65	54	38	22	16
九州・沖縄	840	5.1	514	326	958	5.6	609	349	118	95	23

注1) 住民基本台帳人口移動報告月報(総務省統計局)による。

注2) 東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 近畿地方：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表6に掲載。

表9 東海地方県別転入・転出者数

県	転入				転出				転入超過数(△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	8,619	100.0	4,822	3,797	8,586	100.0	4,756	3,830	33	66	33
静岡県	5,621	65.2	3,125	2,496	5,316	61.9	2,904	2,412	305	221	84
岐阜県	292	3.4	162	130	297	3.4	180	117	5	18	13
愛知県	2,461	28.6	1,387	1,074	2,641	30.8	1,471	1,170	180	84	96
三重県	245	2.8	148	97	332	3.9	201	131	87	53	34